

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM  U5H

NOW ON AIR

移住した18人のディスカッション



ひょうごって実際どうなん？

ひょうご **地域創生フェス** in 丹波

若者の挑戦を
支える基盤がすごい！
情に厚い

いいところを補い合っていきましょう
田舎だからって
人同士の距離感がちょうど良い
豊岡に一目惚れ。みんなに豊岡を自慢したい
とってもサステナブル！チャレンジが楽しい
子どもたちが住み続けられる街に
相生は宝の山 あきらめてる場合じゃない
町のためにできることは何でもやります！
ミツバチと花を町のシンボルにしたい
20年後、面白いんじゃないかと思います
ようこそ！ダイバーシティの街へ
おもしろい仲間がドンドン増えてます
世界に視野を広げてワクワクを
ヤギと一緒に未来をみています
万博はチャンス
兵庫にハマりました
人と人をつないでいく

できないことはない時代

移住はマッチング。出会いを楽しんで

兵庫県
Hyogo PrefectureHYOGO FLEX SIGHT
((●)) 兵庫で暮らせば…



NOW ON AIR



KOBE HANSHIN Talk Salon

おせつ かい文化

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM U5H

ひょうご地域創生フェス in 丹波

合同会社こどもみらい探求社
下町ぐらし研究所

小笠原 舞さん

2016年に、埼玉県から神戸市長田区に移住しました。長田は細い路地に沿って木造住宅が立て込んでいたり、町工場があったり、小さな市場やお店が連なったりしていて、いわゆる「下町」の雰囲気が気に入りました。そこで、同じく関東から近所に移り住んだ2人の女性と「下町ぐらし研究所」を立ち上げ、今は地域住民や観光客も巻き込んで下町暮らしの魅力を伝える活動をしています。バーを併設した「ゲストハウスとまりぎ」を夫と一緒に営み、6歳・2歳の子どもの4人家族で暮らしています。

神戸には海、山、里山、街とすべてがそろい、神戸空港や新幹線など遠方にもアクセスの良い環境が整っています。長田はそうしてこの街にやって来る多様な人たちを受け入れる受容性が高い。ゲストハウスを始める前に説明会を開いた時には、近所の方から「子どもたちをどんどん路地で遊ばせて欲しい」と喜んでいただきました。新しい取り組みを応援してくれる地域の方が多く、「おっちゃんも混ぜて！」と参加して下さることもあります。外国の方、アーティスト、子どもたちも集まるので、私も子どもたちを連れて、いろいろな方たちと交流するのがとても楽しい。長田はまさにダイバーシティの街です。

ダイバーシティの街へ

NPO 法人 PIECES
下町ぐらし研究所

栗野 紗也華さん

神戸市長田区には「はっぴーの家ろっけん」という介護付きシェアハウスがあります。日本人も外国人も、さまざまな事情を持った人が、誰でも「ごちゃまぜ」に暮らす場所。東京に住んでいた時に見学に行き、入居者と地域の人と一緒にリビングでご飯を食べている姿を見て「こういう街に住みたい」と思いました。2021年に長田区に移住。現在は下町ぐらし研究所のほか、子どもの孤立を防ぐNPO法人PIECESのスタッフとして活動しています。

長田には自然に声をかける文化があります。子どもをベビーカーに乗せて歩いていると、「こんなに大きくなったの？」と知らないおばちゃんから頻繁に呼び止められます。そんな温かい眼差しが町全体に多いのは本当に頼もしい。神戸はアクセスもいいから、まずはいろいろな人に会って、マッチングを楽しんでください。住む前に顔見知りを作っておくと、安心して暮らしを始められますよ。



介護士

石山 樹野さん

7年前に北海道から神戸市長田区に移住しました。介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」で介護士をしています。18歳の時は北海道で大学に進学予定でしたが、将来をもっと考えたくてドタキャン。バックパックで一人旅し、いろいろな地域を人づてで巡り、最終的に自分が一番ハマったのが長田でした。「はっぴーの家」のように大人、子ども、障害者、ダンサーなど多様な人たちが集まる空間があり、魅力を感じています。

兵庫の人たちは情に厚くて、人との距離感が近い。「一緒に盛り上げていきたい」「つながりたい」という気持ちの人たちと出会えるのがすごくうれしいです。街をつくっているのは結局は人だと思っています。私には人生相談するならこの人！という方がいるのですが、そういう人が兵庫県内の各地にいたら素晴らしい。長田の下町らしい「おせつかい文化」が広がって、兵庫県に人生の休憩所のような場所が増えるといいな。



情に厚い兵庫にハマりました



神戸阪神

移住はマッチング。出会いを楽しんで

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM  U5H

ひょうご地域創生フェス in 丹波

HARIMA
Seed Project

NOW ON AIR



「ないないづくし」

ゆーてますけども。

若者の挑戦を支える基盤がすごい！

——— ^{しろう} 宍粟市地域おこし協力隊

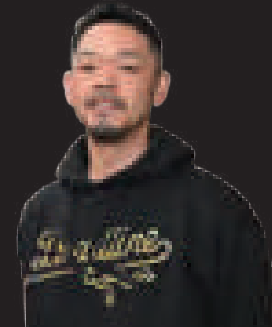
広瀬 和磨さん



生まれ育った姫路市から宍粟市に移り、地域おこし協力隊として観光協会の仕事をしています。大学時代に観光学部で地域再生を学んだものの、コロナ禍の影響で卒業後は違う分野の会社に就職。地域再生への思いが強くなり、また知人に地域おこし協力隊になった人が複数いたことから協力隊を考えるようになりました。宍粟を選んだのは、協力隊のミッションで観光に従事できるのと、姫路からも比較的近い場所だったからです。

宍粟に暮らして思うのは、若者の挑戦を支える基盤がすごく整備されているということ。行政の上層部の人たちとも近くで話せる環境が整い、自分が考える社会課題に挑戦させてくれます。今、私は25歳。地域の人たちが

いろいろなプロジェクトに誘っていただき、活動が終わるたびに飲み会があります。「右手にスコップ、左手にはビール」という合言葉があるくらい(笑)。みんなが楽しみながら地域を盛り上げようとしていてとても楽しいですし、若者がチャレンジしやすい街だと思います。播磨地域は、姫路城以外は全国区の観光スポットも少ないし、交通機関に恵まれているわけでもありませんが、来てみると知らない魅力がたくさんありました。そんな「ないない」の播磨だけど、豊岡や淡路などで行われているような兵庫県内のさまざまな活動に刺激を受け、宍粟がもっと良くなるように自分の手で変えていきたいと思っています。



ミツバチと花を町のシンボルにしたい

——— ShinobeeHoney

田中 啓介さん



東京・渋谷のアパレル店で勤務し、地元・大阪で独立。結婚を機に、自然豊かな場所で子育てをしようと移住を検討。地域おこし協力隊として滋賀県内で活動していた時、養蜂の師匠と出会い弟子入り。ミツバチがより暮らしやすい環境で独立の舞台を探している中で、宍粟市の広くて深い森林に出会い、「ここなら家族やミツバチとより良い暮らしができる」と移住を決断しました。協力隊卒業後は移住者で宍粟くらし移住支援舎を

立ち上げ、ワクワクできる暮らしの情報発信や地域コミュニティ活動、空き家対策などに力を入れています。

都会に住んでいた頃は緑に囲まれた非現実的な世界観を求め、毎週のように田舎町に遊びに行っていました。養蜂家、地域に魅せられている一人として、豊かな山林や田畑をミツバチが好む花々で満たし、自然環境に配慮して、観光・地域振興を両立させるのが夢です。ミツバチと花が宍粟市のシンボルになるようにがんばります。

ヤギと一緒に未来を見ています

——— かなじヤギファームランド

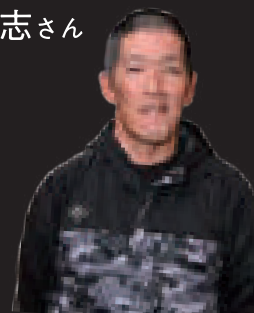
岡部 強志さん

上郡町の地域おこし協力隊員になって2年になります。製薬会社で約20年働いた後、千葉県の牧場でヤギの飼育を勉強。町内の空き地を借りて、昨年7月には8頭のヤギとふれあえる「かなじヤギファームランド」をオープンさせました。ヤギって、1頭あたり1日で量2枚分ぐらいの広さの草を食べます。そんなヤギの力を除草に生かし、農業や耕作放棄地の解消に役立てられ



ないかと考えたのが最初でした。また、ヤギの糞は効果的な堆肥になります。栄養価が高いヤギのミルクの特産品化にも挑戦中。ヤギ由来の堆肥を使った畑で育てた牧草でヤギを育て、そのミルクをいただく。循環型自然農法の研究も進めています。

ヤギは見ているだけでストレスが軽減します。ヤギを楽しむ方が増えれば、上郡への人流も増えていく。上郡から兵庫県全体へ笑顔と元気を届けていきたいですね。



相生は宝の山 あきらめてる場合じゃない

——— 相生の港町を持続させる会

渡部 政弘さん

理学療法士協会のボランティアで2011年に東日本大震災直後の岩手県を訪ねた際、地域と福祉の関わりの重要性に目覚めました。相生市に移住し、さまざまな



ニーズに直接応えていくうちに地域課題に気づき、便利屋として独立。地域包括支援センターで働きながら、コミュニティカフェ、相生

の港町を持続させる会にも関わっています。

相生地区は高齢化率が55%を超え、地元の人たちの間にはあきらめがあるように見えます。若者も出ていく。でも他から来た私にしたら、めっちゃ宝の山なんです。港町の雰囲気に残り、美しい海もある。だから船人間コンテストをしたり、公園を整備したり、空き家相談に乗ったりして、魅力発掘に努めています。岩手県で感じたのは人のつながりが強い地域ほど心の復興も早かったこと。人と会うのは大好きなので、これからも地域の絆を結んでいきたいです。



砥峰高原
播州織物
そろばん
姫路おでん
魚の棚商店街
書写山圓教寺
日本へそ公園
乙大木谷の棚田

播磨



などなどなどなどなどなど

——— なんや、いっぱいあるやないかい。

ひょうご

地域創生フェス

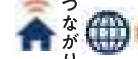
in 丹波

NOW ON AIR

〜Workshop Review〜

フェスに集まった移住者18名が5つのチームに分かれて、話し合いを行ないました。

ひと

つながり

五国の特色

予算！？



ひょうごの各地への移住者18人が一堂に集まり、暮らしの未来を考える「ひょうご地域創生フェス2024」が2024年11月2日、丹波市で開催されました。大学教授や専門家も加わり、ひょうご五国の多彩な魅力と広がる可能性について熱いディスカッションが交わされました。

5つのテーマ

「移住」「まちづくり」「起業」「教育」「観光」

なにしたい？

FM

U5H

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

難易度別クエスト型ツアー

「移住チーム」



どのエリアがいいかわからない？

「難易度別クエスト型ツアー」を提案します。兵庫県は地域によってさまざまな特色があるので、地域ごとに生活のしやすさなどの項目別に難易度を星の数で表示。移住希望者は星の数を参考に地域を選んでパッケージツアーを作ってもらいます。移住しようとする人の中には、「どの地域を選んでいいかわからない」という人が結構います。地域性をゲーム感覚で体感してもらい、移住に大事な人と人とのつながり、今後の生活をイメージできるように手厚いサポートができれば、移住者がもっと増えるのではないのでしょうか。

「ゲーム感覚で五国を巡ってもらえたら」

【裏】人生相談所を開設

「まちづくりチーム」



やりたいことを見つけて実現するために

今の大学生や若者は、自分のやりたいことが見つからず、やりたいことはあってもどう実現しているかわからない人が多いと聞きます。今回参加したメンバーの活動地には人生経験豊かでユニークな人材が豊富にいます。若者がその人たちに会い、人には強みも弱みもあることを知り、何か一歩を踏み出すきっかけを作ってもらうツアーを提案します。表向きには「意識低い人向けのキャリアデザイン研修(笑)」としていますが、裏テーマは「人生相談所」。兵庫県内が若者たちの人生相談のフィールドになればいいなと思っています。

強みも弱みもある。人にもまちにも

かばん持ちプロジェクト

「起業チーム」



起業家の秘書を体験してもらおう

私たちのメンバーは皆、起業しています。起業を目指す人に、挑戦を後押しできるプロジェクトがあればいいのではないかと考えました。その名も「かばん持ちプロジェクト」。起業家の秘書的な役割を体験してもらうのです。実際の仕事や生活ぶりをそばで見て、いい面も悪い面も吸収。どの起業家につくかは、「社長ガチャ」をして偶然に任せます。さらにレベルを上げたい人は、「右腕プロジェクト」として起業家の右腕として働いてもらいます。これを繰り返せば、兵庫県は起業家を生む県としてのブランドを確立できます。

誰かの右腕になって働くのもアリ

偶然の出会いがチャンスになる！

五国 県内こども留学

「教育チーム」



五国それぞれ全然違う魅力がある

兵庫県内の五国(神戸、播磨、但馬、丹波、淡路)はそれぞれに魅力があり、課題もさまざまです。そこで小学生がいろいろな環境を経験できる「県内こども留学」制度を考えました。利用したい人が登録し、登録された家庭に子どもが出かけます。その町や学校のことは保護者も知りたいと思うので、オプションで家族と一緒に参加できます。滞在場所には、地域にある空き家などを活用します。1年目は100万円の予算を使って、20組を実施。2年目以降は取り組みたい市町村を募集し、一国につき100万円の予算をあてます。

子どもたちが五国それぞれの環境を体験

家族と一緒に行動してもOK！

「ないない」から「あるある」へ

「観光チーム」



名物も名所も宿泊施設もないけど？

地域ごとにプロジェクトを考えました。西播磨は宿泊施設も名物も名所も少ない「ないない」エリアですが、例えば、飼っているヤギと過ごせる宿泊施設を目指し、まずは通所できる環境整備に100万円を使います。但馬では旅を通して地域のキーパーソンの活動を巡り、体験や交流を図る地域共感プロジェクト「Co-trip」を企画したいです。淡路には強い思いを持って移住した人が多い一方、観光客がすぐに面白い人に自力で出会うのは難しいので、コーディネートできる人を育てたいです。神戸・阪神や丹波でもいづれの手法も活用できると思います。

面白いことに出会える仕掛け

一人ひとりがおもしろい 結集しよう

兵庫県教育大学大学院 永田 夏来さん



フェス開催は、私が兵庫県から委託を受け、移住者の生活などの調査を行っていることがきっかけでした。インタビューした約50人の一人ひとりが、とにかく面白い！この人たちを集めて地域の課題を話し合ったり、交流したりすればものすごい「化学反応」が起きますと確信しました。そのことを県職員に話し、形になったのが今日です。ワークショップの発表は、若い人に響くボキャブラリーが盛り込まれ、実現させたいものばかり。「すごいことが起きる」という私の思いが現実となり、感無量です。これから力を合わせて兵庫県を盛り上げていきましょう！

移住先進地・丹波の経験を全県に

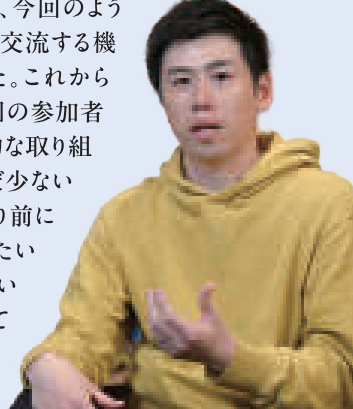
ファシリテーター 横田 親さん



私は2010年に丹波市に移住しました。当時は有機農業の里として知られ、農業で移住する人が多く、そうではない私のことを町の人たちは不思議に思ったようです。私が取り組んだのは、丹波の魅力をSNSで発信すること。メディアで「丹波は魅力的な移住先」と取り上げられ、今は空き家が少ないことが課題になるほどです。丹波には自分たちの町を自慢して語る人がいっぱい。暮らしの誇りを口に出せる人を育てていくことが、兵庫県を魅力的な地域にすることにつながると思います。

移住者促進は長い目で育てよう

ファシリテーター 丸毛 幸太郎さん



今日のワークショップは、現場で活動されている人ならではのアイデアが出ていてすばらしいと思いました。同じエリアの同士が会うことはあっても、今回のように兵庫県全域の人たちと交流する機会はなかったと聞きました。これからの展開が楽しみです。今回の参加者のように、移住先で特徴的な取り組みを行っている存在はまだ少ないですが、20年後には当たり前になってほしい。移住したい人と、移住者を応援したい人たちが、もっとつながってほしいですね。

移住者はコミュニティが大切

甲南大学 阿部 真大さん



移住者は自分たちの居場所を大切にしています。彼らは地域の昔ながらの濃い地縁関係を大切にすると同時に、新しいことにも積極的です。移住先でユニークな試みをする人たちは、地域に根ざしながら、都会から来た人ともつながり、一緒にできることをどんどん生み出しています。そうしたハイブリッドなコミュニティづくりはとても重要で、その支援を兵庫県には求めたいですね。

兵庫のこれからの可能性

同志社大学 轡田 竜蔵さん



兵庫県への転入者が以前に住んでいたのは、実は大半が兵庫県内。地方自治体で人口減少が進むと、ネガティブに捉えられがちですが、相互往来で活力を維持できます。仕事の満足度や、男女の役割分担に関する意識も都市部と地方では差がありません。「街の人は寛容。地方の人は保守的」という固定観念を脱して、新しい価値観を生み出したいですね。

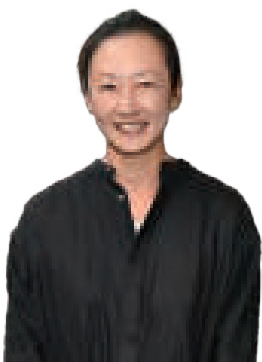
空き家問題 地域でバランスよく

神戸学院大学 松村 淳さん



神戸市郊外の、60〜70年代にできたニュータウンは空き家問題が深刻になっていますが、「地方に住む方が挑戦しがいいがある」という人も多くいます。永田先生から、「今日のフェスは、県内から面白いプレーヤーが一堂に会する」と聞きましたが、まさにその通り！町にどれだけ面白い人、楽しい人がいるかで、未来の盛り上がりが決まるように感じています。

いいことを 補い合っていきましょう



wataya farm
青木 幸さん

尼崎市に生まれ育ち、10年間東京の会社に勤務。その後、夫と世界を旅して、6年前に両親の故郷である養父市に移住しました。現在は、兵庫の最高峰・氷ノ山の近くの山麓で季節の野菜や小麦を栽培。小麦はパンや菓子に加工して販売もしています。都会での暮らしは消費する楽しみが

ありますが、ここでは逆に何でも自分で作り出すことに喜びを感じます。特に清らかな水とミネラル豊富な但馬で採れるものは野菜を含めてすべてがおいしい。その新鮮で良質な食材から自分の体が



できていることがうれしいですね。

2023年からは養父市との協働事業で、子どもたちと山遊びのワークショップなどを開催しています。移住サポートセンターの相談員もしていますが、人口を増やすことが目的になってはいけないと思うので

す。移住する人がこの地でどうすれば幸せを感じて生きていけるかを地域みんなで考え、いいところを補い合っていきたいですね。

とってもサステナブル！
チャレンジが楽しい



シェアスペース コトブキ荘
松宮 未来子さん

豊岡市に移住したのは2013年頃。東京などで建築・デザインの仕事をしていた、映画館「豊岡劇場」を復活するプロジェクトに関わるようになったのがきっかけでした。豊岡には1925年の北但大震災後にできたモダン建築が残る復興建築群があり、劇場もその一つ。「街の資源として活用したい」と活動する中で友だちも増え、仕事を辞めて移り住み、築約90年の古民家を借りシェアスペース「コトブキ荘」を運営しています。



東京はお金さえ出せば楽しく暮らせるけれど、消費することに少し疲れ、隣人の名前すら知らないことに寂しさも感じていました。ここでは近くで捕れた魚を食べ、毎日多様な人との出会いがあり、困った時には隣人が助けてくれてとてもサステナブル！商店街の中にレンタルスペース「まちの基地アンテナ」もオープンしました。移住で広がった仲間と新しいチャレンジができるのが今すごく楽しいです。

東京はお金さえ出せば楽しく暮らせるけれど、消費することに少し疲れ、隣人の名前すら知らないことに寂しさも感じていました。ここでは近くで捕れた魚を食べ、毎日多様な人との出会いがあり、困った時には隣人が助けてくれてとてもサステナブル！商店街の中にレンタルスペース「まちの基地アンテナ」もオープンしました。移住で広がった仲間と新しいチャレンジができるのが今すごく楽しいです。

いい意味で



さびれてます。

豊かな山の幸、海の幸があります。

Hostel Act & もりめ食堂

森 恵美さん



愛媛県出身です。大学進学から15年ほど京都で過ごしていた時、城崎温泉に行く途中で豊岡駅周辺を散策。故郷に似た街の雰囲気と人の温かさに心を驚嘆みにされ、移住のきっかけになりました。今は100年近く続く公設市場の中にゲストハウスを開設。宿泊場所としてだけでなく、地元の方も立ち寄れて、旅人と気軽に交流を図れる場所にしたいとの思いから、小さな食堂も併設し、ある種の地域のハブを目指しています。



周囲は木造のアーケードがすてきな商店街で、銭湯や映画館も近隣にあるのに、利用する人が減っているのがとても残念。世界中の人がやって来られるように、街並みだけでなく、人や暮らしも観光資源としてもう一度掘り起こしていきたいです。私がそうだったように、「自分の居場所のように豊岡に惚れた」と思ってもらえる活動を続けていきます。

町のためにできることは 何でもやります！

町議会議員をしながら、学習塾を経営し、デザインの仕事もしています。東京の大学を卒業後、Uターンして12年になりますが、その間、但馬の移住相談に乗ったり、コミュニティーづくりのイベントに関わったり、シェアハウスを立ち上げたりと、さまざまなチャレンジをしてきました。コロナ禍の影響もあって今は離れた事業もありますが、「この町のためにできることはしたい」との思いは変わりません。



1歳8カ月の息子と2カ月の娘の子育て真っ最中。学習塾では子どもたちの夢を広げようとクリエイティブな授業にも力を入れています。オリジナル手ぬぐいなど湯村温泉のお土産開発もお手伝い。町のランチ情報もWEBで発信しています。兵庫県が一番左上にある新温泉町を広く知ってもらい、未来を明るく切り開いていきたいですね。



学習塾 MoCT 岡坂 遼太さん

ミステリアス
TAJIMA

但馬

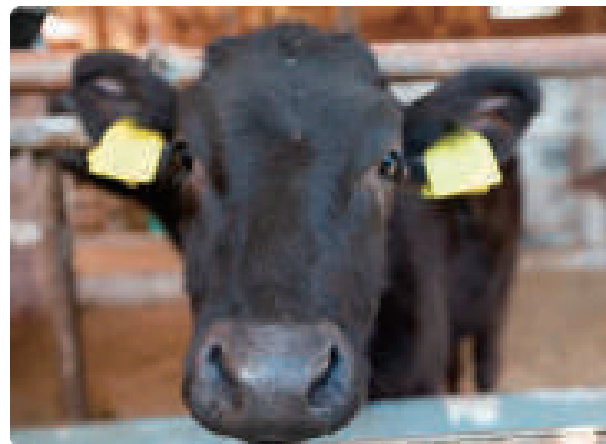
Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM U5H

ひょうご地域創生フェス in 丹波

NOW ON AIR

但馬牛は有名ブランド和牛のルーツやで。
松葉ガニは冬の味覚の王者やな。
極上の温泉もあるで。



但馬牛

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM U5H

ひょうご地域創生フェス in 丹波

NOW ON AIR

Advance
in
TAMBA

移住

私の父は日本人、母はエチオピア人です。父の移住した丹波に私が東京から移ったのは2015年、35歳の時。以前は国際NGOで働き、紛争や災害、経済的理由で家が持てない人たちを支援していました。世界の格差に直面し、日本もグローバル経済に依存しすぎない暮らしが必要と考え、活動場所は丹波が最適だと思いました。最初は地域おこし協力隊として空き家の利活用を担当。今は市の移住定住相談窓口「たんば“移充”テラス」を運営し、住まい、仕事、暮らしの情報をワンストップで提供しています。

「ひょうご地域創生フェス」では「兵庫県若者の暮らしに関するアンケート」が参考になりました。都市部と地方では、性別役割分担への意識やクリエイティブ

な仕事の割合にそれほど差がないと聞き、驚きました。田舎だからって、できないことはない時代になったと言えるのかもしれませんが。おかげさまで丹波地域は移住者が増えています。移住促進はただ人を増やすことが目的ではなく、移住者がどのように地域と関われば活性化につながるのかを、戦略的に考える必要があると感じています。

兵庫には丹波をはじめとする五国があり、「私にはこの地域がフィットする!」「ここならチャレンジできる!」という場所を見つけられると思います。人生を120%楽しんでください。私自身がそうですが、移住者それぞれが自分の人生を充実させていれば、訪れた人たちが「楽しそう」と引き寄せられ、ますます移住の輪が広がっていくと信じています。

たんば“移充”テラス
中川 ミミ さん

田舎だからってできないことはない時代

丹波は○○の先進地



子どもたちが住み続けられる街に

株式会社いなかの窓 元社長 本多 紀元 さん

教育

大学卒業後、神戸などでWEBエンジニアをしていました。2014年に篠山市(当時)にUターン。日本創成会議が発表した消滅可能性都市に地元が入っているのを知り危機感を持ったからです。地元で得意なITを生かせる企業が見つからなかったの、それなら自分でやろうと、株式会社を設立。WEB制作などでいろんな方と関わるうちに、若い世代に政治に関心を持ってほしいとの思いが強くなり、2024年から市議会議員として活動しています。

丹波篠山市は全国的に見ても教育熱心な街なんです。政府統計の総合窓口e-Statで全国792市を調べると支出に占める教育費の割合が全国平均よりかなり高く、人口あたりの小学校教員数は37位、幼稚園数は9位ととても高いレベルにあります。小・中学校では1人1台の情報端末を授業で積極的に活用。こうした子どもたちの未来への高い関心が、丹波篠山市の未来への関心につながり、子どもたち自身も生まれ育った街に誇りを持って住み続けられるようにしたいです。

目指すのは「しなやかなおっさん」。地域内で出しゃばりはしないけど、相談を受けたら気安く何でも進んで手を貸してあげられる。そんなおっさんになるのが理想です。いま丹波篠山市には地域おこし協力隊として若い人が多く来てくださっています。任期終了後も事業を興すなどして、7～8割が住み続けている印象です。地域と深く関わるほど、離れがたくなるようですね。地域も移住者に長く居てほしいと望んでいるし、そのサポート体制が整っています。これからも新しい出会いを楽しみにしています。

AWAJI
Island Station

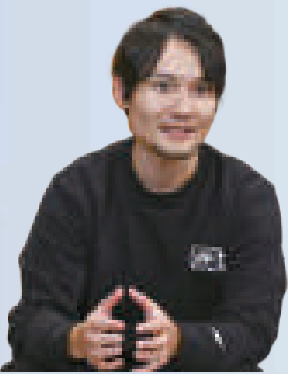
NOW ON AIR

20年後、面白いんじゃないかと思っています

人同士の距離感がちょうど良い

おもしろい仲間がドンドン増えてます

世界に視野を広げてワクワクを



NPO法人 Entrance To Awaji

武政 彰吾さん

「起業するなら、行ったこともなく、知り合いもいないところが面白い!」と、2019年に東京から南あわじ市に移住。友人とキャンプ場運営などの会社を立ち上げる一方で、市の委託で移住相談やツアーにも取り組んでいます。



「こういうものがあるといいね」を形にしていたら事業になり、最近駄菓子屋も始めたところです。

小学校で子どもたちが南あわじ市の魅力を自作スライドで発表するのを見たことがあります。彼らが羽ばたけば、20年後、面白いんじゃないかと思っています。都会しか知らない人生はもったいない。未来の主役が夢に向かっていけるよう土台作りをやりたいです。



株式会社シマトワークス

藤田 美沙子さん

大阪の会社で働いていました。結婚を機に移住を考え、淡路島での社会人インターンシップに参加。2022年に夫と洲本市に移住し、地域おこし協力隊としてシマトワークスの事業に携わっています。古民家を購入して改装し、地域交流拠点「HOOK」として昨年11月にオープン。自宅兼、シェアワーキングやイベントに活用していきます。



地域の皆さんと仲良くなれるか不安でした。でも、実際はすごくウェルカム状態。近すぎず遠すぎずのいい距離感で、とても良い住み心地です。今後は自家製ハーブを使ったアロマテラピー商品のブランドを立ち上げたいと思っています。

都会しか知らない人生、モツタイナイ説



くうみの島。
古事記編纂から1300年

「よりまち荘」管理人

毛利 優花さん



出身は富山です。京都の大学で地域デザインを学んでいた時に教員から淡路島を勧められ2~3週間滞在。つながりができて、2023年に洲本市に移住しました。現在、地域おこし協力隊として「よりまち荘」で、近隣大学との連携や関係人口を増やす事業を担当しています。



淡路島の人、他の地域から来た人を優しく受け入れてくれます。協力隊の新しい取り組みには、「何それ!」と言いながらどんどん面白がってくれる。任期はあと1年少しありますが、今学んだ地域デザインを生かして、地域の人たちと一緒にクリエイティブなことに挑戦していきたいですね。

株式会社シマトワークス

富田 祐介さん



「ワクワクする明日を、この島から」をコンセプトに、観光、食、人材育成の企画会社を2014年に洲本市に設立しました。出身は神戸市。大学卒業後に東京などで建築設計業務に従事し、2012年に淡路島に移住。地域の雇



用を増やす「淡路はたらくカタチ研究島」を経て、現在の会社を興しました。

大切にしているのは淡路島の内外の人たちと「ワクワクしたい」ということ。できることを考え、一緒にカタチにできる仲間がどんどん増えています。島の外の人たちともっと関係を強めたい。アジアや世界にも視野を広げていけば、もっと面白いことに挑戦できると楽しみにしています。

万博はチャンス 人と人をつないでいく

出身は岐阜県。京都の大学で2年の時に淡路島で「淡路ラボ」(次世代共創企画が運営)の長期インターンシップに参加しました。目的は淡路島を研究所に見立て、事業者、若者、地域をつなげてお互いの良さを生み出す関係を作ること。まずは観光名所をVR(仮想現実)で紹介する動画などを制作しました。そのままラボ事務局に就職して移住。現在は淡路島に暮らす人と島外の人をつなぐ「島の人事部」として、関係人口の創出に挑戦しています。全国の学生と事



淡路ラボ事務局 大畑 渉さん



業者の支援も担当。これまでに約50人の若者が参加し、6人が島内に就職しました。小企業でも雇用できる仕組みを構築したいと考えています。

淡路島の対岸に位置するのが、実は大阪・関西万博の会場です。淡路ラボは万博の「共創パートナー」に選ばれました。淡路島の観光や魅力を発信する絶好のチャンスがやって来ました。人と人のつながりが増え、淡路島が発展し、やがては兵庫県全体に波及していくことを目指したいですね。